

港湾振興便り



2014. 7
第87号

目 次

- 1 ポートエッセイ — 寺島講演から見える世界 —
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

2 トピック

- 「サン・プリンセス」による北海道周遊クルーズがスタート！
(北海道クルーズ振興協議会)

- 石狩湾新港開港20周年記念式典を開催
(石狩湾新港管理組合)

- 第33回横浜開港際へ参加しました！
(関東地方整備局 京浜港湾事務所)

- 博多ポートタワー開設50周年記念 港へおいでよ！海の日ポートフェスタ
(博多港振興協会)

3 お知らせ

- 1 ポートエッセイ — 寺島講演から見える世界 —
～日本港湾振興団体連合会会長(新潟市長) 篠田 昭～

新潟市が大規模農業の改革拠点として「国家戦略特区」に指定された話を先月のコラムに書いた。その関連で先月、東京でシンポジウムを開き一般財団法人「日本総合研究所」の寺島実郎理事長から講演をいただいた。内容が興味深いものだったので紹介する。

国交省で「国土のグランドデザイン」を考えるメンバーでもある寺島氏は、圏央道が延伸したことで日本の国土構造が劇的に変わりつつあると指摘した。「東名自動車道と関越道が接続され

たことで山梨県が横浜や羽田とつながり、一方で日本海側ともつながった。首都圏と日本海側が多様につながることで、日本の物流構造は大きく変わる」との見方だ。

この総合交通体系の国内の変化と、世界の変化をどうリンクさせるかに日本の将来はかかっていると寺島氏は見る。世界の物流変化は大きく言って2点ある。1つが北極海航路の活用だ。「1昨年は49隻が北極海を航行した。北極海航路の活用がリアリティをもってきた」との見方だ。もう1つがパナマ運河の拡幅だ。これまではパナマックスという言葉があるように6万トン級タンカーしか通れなかったものが、今後は10万トン級まで通れるようになる。日本の港湾はこの2つの変動要素にどう対応するかがこれからのカギを握る。

もう1つ、日本の将来を大きく左右するのはロシアとの関係だという。中韓との関係が悪化する中、「安倍外交の光はロシアだった。そこにウクライナ問題が起きた」と寺島氏。ロシアは中国とLNG協定を結び、日本が買っているLNG価格の半分程度、9.6ドルで売却することに合意した。「現在の日本はエネルギーを過度に中東に依存している。LNGはいまロシアから1割程度。2020年にはシェアの2割となる見込みだった。ウクライナで日ロ関係が冷え込むのか。欧米は、政治は冷却してもエネルギーは分離させている。日本のロシアへの向き合い方が、日本の今後の大きなポイントになる」と寺島氏は語っていた。

*:

2 トピック

*:

●「サン・プリンセス」による北海道周遊クルーズがスタート！

～小樽港において就航歓迎セレモニーを実施～

(北海道クルーズ振興協議会)

プリンセス・クルーズ社が運航する「サン・プリンセス」(77,000総トン)の「北海道周遊クルーズ」が小樽港を起点に12週連続実施されることから、初便の出港にあたり6月28日、小樽港勝納埠頭において、就航歓迎セレモニーを実施致しました。このセレモニーは、北海道クルーズ振興協議会と小樽港クルーズ推進協議会の共催で行われ、磯崎北海道運輸局次長、中松小樽市長の歓迎挨拶に続き、ミス小樽、寄港5港湾(小樽港、函館港、室蘭港、釧路港、網走港)代表による花束贈呈、「サン・プリンセス」マリオ・チールツツイ船長の挨拶、関係者によるテープカットで無事終了致しました。

当日はセレモニー開始前から気温が高く、参列者の額からは汗が流れるほどの晴天だったことから、マリオ・チールツツイ船長は挨拶のなかで「この良い天気を12回お願いしたい」と話しておりました。(が、何とセレモニー終了直後に大粒の雨が)

「サン・プリンセス」は来年オーストラリアを中心にクルーズを展開することになっていますが、再来年には北海道に戻って来てくれることを期待しています。



テープカットの様子



「サン・プリンセス」入港状況

●石狩湾新港開港20周年記念式典を開催

(石狩湾新港管理組合)

国際貿易港である石狩湾新港は、6月10日（火）に開港20周年を記念して「開港20周年記念式典」を開催しました。

式典には関係者ら約150人の方々にご出席を頂き、北海道の物流・エネルギー供給拠点として成長を続けている同港の節目を祝し、くす玉開披などを執り行いました。

石狩湾新港は昭和48年に着工し、平成6年に国際貿易港として指定されました。平成25年には貿易額が開港以来、初めて1千億円を突破し、取扱貨物量や外資コンテナ取扱個数も過去最多となるなど、札幌圏に近い物流港湾として高く評価されてきているところです。

また、平成24年には北海道ガス（株）がLNG（液化天然ガス）輸入受入基地を稼働させるなど、北海道のエネルギー供給拠点としての役割も年々増しているところです。

今後も、北海道の日本海側における物流やエネルギー供給の拠点として、北海道経済の新たな可能性を広げられるよう、港湾機能の強化などに努めてまいりたいと考えています。



くす玉開披の様子

●第33回横浜開港際へ参加しました！

(関東地方整備局 京浜港湾事務所)

横浜港が開港から155周年を迎える中、第33回横浜開港祭が開催されました。

京浜港湾事務所では、市民の生活を支えている港の役割や重要性を広く一般の方々に理解して頂くことを目的に、港湾整備の事業説明パネル等の展示・説明を行うブースの出展及び港湾業務艇「たかしまⅡ」の乗船会(1日3便、計9便)を実施しました。

展示ブースでは、親子連れがコンテナ船や客船の大型化に関する説明に対して、熱心に耳を傾け、また質問をする光景が見受けられたり、一方では、小学生の子供達が耐震強化岸壁の整備を紹介したパネルの前で足を止めて、職員からの説明に聞き入ったりするなど、市民の方々の港に対する関心の高さを感じる場面が数多くありました。また、清掃兼油回収船「べいくりん」(所有：千葉港湾事務所)の模型に対して、子供達をはじめ多くの方が興味を持ち、足を止めてスキッパー(ゴミ回収装置)が動く様子などをじっくりと観察していました。「べいくりん」の役割を知るとともに、海をきれいにしようという気持ちが芽生えているようでした。

乗船会では、計約250人の見学者が参加し、普段は間近で見ることのないガントリークレーン、コンテナターミナル、耐震強化岸壁の工事等の見学を通じ、港の役割や京浜港湾事務所の仕事の重要性について理解を深めて頂けたのではと思います。特に、目の前で巨大なガントリークレーンが船にコンテナを積み込み始めると、「おおー！」と歓声が上がリ、港での仕事の大きさに驚くとともに、港が果たしている役割の大きさに対しても驚きを感じているようでした。

今回の様なイベントは市民の方々が港の役割や重要性を肌で感じることの出来る貴重な機会となっていると思います。京浜港湾事務所は、今後も積極的にこのようなイベントに参加し、より多くの方へ港の役割・重要性をPRしていきたいと考えています。



展示ブース前



展示ブース内



乗船会の様子（デッキ）



乗船会の様子（船内）

●博多ポートタワー開設50周年記念 港へおいでよ！海の日ポートフェスタ

（博多港振興協会）

博多港の中央ふ頭で毎年7月に開かれている「港へおいでよ！海の日ポートフェスタ」。博多ポートタワー開設50周年の今年は、海上保安部のPRコーナーやオープンカフェ、エア遊具の無料開放など、楽しい催しが盛りだくさん。特設ステージでは、最新水着ファッションショーや福岡を拠点に活動するアイドルグループのライブ、チアダンス、福岡市消防音楽隊&カラーガード隊ショーなど、華やかなパフォーマンスが次々に繰り上げられる。博多港を身近に感じるイベントに、家族みんなで出掛けてみては。

■と き／7月27日（日）10：00～16：00

■ところ／中央ふ頭イベントバス（福岡市博多区沖浜町）



博多ポートタワー開設50周年記念ロゴ

